

クリスチャン・ツイメルマン

ピアノ・リサイタル



© Bartek Barczyk

Krystian Zimerman

Piano Recital

2025年12月18日(木) 19:00開演

7:00p.m., Thursday, December 18, 2025 at Tokyo Opera City Concert Hall

東京オペラシティ コンサートホール

〔主催〕 ジャパン・アーツ

〔後援〕 駐日ポーランド共和国大使館
ポーランド広報文化センター
在日スイス大使館

〔協力〕 ユニバーサル ミュージック



駐日ポーランド共和国大使館



ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館

Der Wohltemperierte Flügel

Preludes & Co

※曲目の詳細は公演当日に別途発表いたします。

【クリスチャン・ツイメルマン 2025年日本公演】

11月 8日 (土)	[柏 崎]	柏崎文化会館アルフォーレ 大ホール	主催： 柏崎市文化会館アルフォーレ
11月16日 (日)	[福 山]	ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ	主催： 福山市、ふくやま芸術文化財団 ふくやま芸術文化ホール 広島ホームテレビ
11月21日 (金)	[西 宮]	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	主催： 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
11月23日 (日・祝)	[名古屋]	愛知県芸術劇場 コンサートホール	主催： CBCテレビ
11月26日 (水)	[川 崎]	ミューザ川崎シンフォニーホール	主催： 神奈川芸術協会
11月29日 (土)	[所 沢]	所沢市民文化センター ミューズ アークホール	主催： (公財) 所沢市文化振興事業団
12月 3日 (水)	[東 京]	サントリーホール	主催： ジャパン・アーツ
12月 8日 (月)	[東 京]	サントリーホール	主催： ジャパン・アーツ
12月12日 (金)	[仙 台]	東京エレクトロンホール宮城	主催： 仙台放送
12月14日 (日)	[水 戸]	水戸芸術館 コンサートホール ATM	主催： (公財) 水戸市芸術振興財団
12月18日 (木)	[東 京]	東京オペラシティ コンサートホール	主催： ジャパン・アーツ



クリスチャン・ツイメルマン (ピアノ)

Krystian Zimerman, Piano

ピアノという楽器を熟知した、緻密で完璧な演奏により、多くの巨匠たちと共演してきた現代最高峰のピアニスト。

ポーランド生まれ。音楽家だった父親が友人らと毎晩、音楽に興じるのを聴いて育った。5歳からピアノの手ほどきを受け、7歳でポーランドのピアニスト、アンジェイ・ヤシンスキに師事し、本格的に音楽を学んだ。1975年、弱冠18歳で「ショパン国際ピアノコンクール」で優勝。翌年、ドイツ・グラモフォンよりレコード・デビューを果たし、ヘルベルト・フォン・カラヤン、レナード・バーンスタイン、小澤征爾ら多くの巨匠と共演。「人生で出会ったもっとも興味深い音楽家」と評する指揮者で作曲家のバーンスタインとは15年以上にわたり、たびたび共演。2018年のバーンスタイン生誕100周年の際、彼の交響曲第2番『不安の時代』を世界の主要都市で演奏。

ショパン没後150周年(1999年)の前年には、ポーランド出身の音楽家で編成した「ポーランド祝祭管弦楽団」を結成。ショパンのピアノ協奏曲の公演を精力的に行った。また、ベートーヴェン生誕250周年(2020年)には、指揮者のサイモン・ラトルと共に、この楽聖のピアノ協奏曲を全曲再録音した。1978年以来たびたび来日し、2003年には東京にも自宅を構えたほどの親日家。「ピアニストは楽器に興味をもつべきだ」が持論。自ら調律し、組み立てるなどピアノのメカニズムや音響学に精通し、作品解釈を極めることが、精緻で繊細な演奏を支えている。

フランスのレジオンドヌール勲章受賞(2005年)、ポーランドにおける民間人の最高勲章である、星付きコマンドルススキ十字勲章(2013年)など、栄誉ある名誉博士号や勲章を受賞。2022年には第33回高松宮殿下記念世界文化賞音楽部門を受賞。2023年にクラシック界で最も権威のある賞の一つである英「グラモフォン賞2023」録音賞(ピアノ部門)を『シマノフスキ：ピアノ作品集』で受賞。また、本年2025年10月にも「グラモフォン賞2025」録音賞(室内楽部門)を『ブラームス：ピアノ四重奏曲第2番&第3番』で受賞した。

Der Wohltemperierte Flügel — Preludes & Co

ショパン、ドビュッシー、ラフマニノフ、スクリャービンなど、いくつかの作曲家はプレリュード（前奏曲）の連作を書きました。私はそうした作品のいくつかを演奏してきましたが、不思議な感覚を覚えます。というのも、そのような連作には、優れた作品が含まれている一方で、間を埋めるためだけに書かれたような曲もあるからです。

「全曲演奏」へのこだわりは、実はレコード産業の登場から始まったものです。それ以前のピアニストたちは、まったく違うプログラムの組み方をしていました。たとえば19世紀のクララ・シューマンの演奏会プログラムを見ても、彼女が“全曲演奏”を行ったことはありません。

この「全曲演奏」というあり方に強く反発していた一人はスヴャトスラフ・リヒテルです。1980年代にパリで彼と夕食をとともにした際、ショパンの《バラード》を4曲のうち3曲だけプログラムに入れていた理由を尋ねると、彼は不機嫌になりこう言いました。「なぜ市場は全曲演奏に取り憑かれているのだ？バラードはサイクル（連作）ではない。スケルツォもそうだ。これはショパンの生涯を通して書かれた4つの別々の作品で、連作として意図されたものではない。なぜ全曲でなければならないのだ？」

1981年にヴィルヘルム・ケンプとこの話題を議論したとき、彼も同じ意見を持っていました。「レコード産業というものが私たちのプログラム構成や解釈の習慣を変えてしまったのだ」と彼は言いました。「たとえばラヴェルの《夜のガスパール》やベートーヴェンのいくつかのソナタも、78回転レコードに収まるようにテンポを変えざるを得なかったこともある」と。

このシーズンは、私にとって重要な節目となります。70歳という新たな年代に向うことで、謙虚な気持ちになり、同時に実験的な挑戦に対して、前より少し勇気を持てるようになったかもしれません。また、より多くの好奇心を持つようになりました。

リサイタルのプログラム作りは、常に綿密に練り上げ、その語り口と共に成長させていくものです。これまで53におよぶシーズンの中でプログラムをどのように構築し、流れを生み出すかということを、非常に大切にしていました。そして、今年のプログラムは、私にとって新たな方向性を示すものです。挑戦する勇気を得るまでに20年を要した試みであり、スヴャトスラフ・リヒテル、アルトゥール・ルービンシュタイン、ヴィルヘルム・ケンプ、クラウディオ・

アラウ、アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ、エミール・ギレリスらとの対話や議論から大きく刺激を受けたものでもあります。

これまでに1000曲以上を研究し、そのうち500曲以上を公の場で演奏してきました。その中には、個々の作品としては優れていながらも、リサイタル・プログラムの中に組み込みにくい作品も100曲以上ありました。

私はこれらの作品群を「**プレリュード & Co(その仲間たち)**」と呼びたいと思います。

現在私は、バッハの《平均律クラヴィーア曲集》(**Das Wohltemperierte Klavier**)に着想を得た新しい試みを考えています。これをバッハから今に至る約300年の音楽史の中で作品を真珠のネックレスのようにつなぎ合わせるのです。必ずしもすべての調を網羅する必要も、順番に並べる必要もありません。今回のコンサートでは、63曲を用意しています。

この「プレリュード & Co」という企画を構想するうえで、もう一つ大きな影響を受けたのは、この夏に東京で訪れたある展覧会でした。その展覧会には、案内図も事前情報もなく、自分の足で歩き回りながら探索しなければなりませんでした。中には、二度目の訪問で初めて見つけられる部屋もあり、私は大いに驚きました。この体験は、私が目指していたものに非常に近いものでした。

それをコンサートホールという場でどう実現できるかを考えたとき、「どうすれば聴衆の好奇心をもっと引き出せるだろうか」と思いました。私は聴衆の皆さんに、私と一緒に未知のプログラムの旅へ出るような感覚を味わってほしいのです。その旅の行き先は、私自身にも完全には分からないかもしれません。

私は日本人々が持つ非常に高い美的感受性に深い敬意を抱いております。そして、演奏や解釈は聴衆なくして存在しえないものです。聴衆の皆さんとこの新たな一步を最初に共有し、共に創り上げていけることを、心から願っています。

ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、
心より感謝申し上げます。

これからも引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 天野 雅子 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K.
神田 尚子 北村 眞 小林 真希子 R.K. 相良 延利 新貝 康司 鈴木 忠明 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実
田中 治郎 東條 Lilly K.T. トゥルーラブ 真智子 苫地 英人 K.N. E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 A.H.
T.H. 樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子 M.H. 松尾 芳樹 E.M K.M. 真野 美千代
三木谷 晴子 水野 靖彦 安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子
(匿名希望 19名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社 青林堂
三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<館野泉 パースデープロジェクト「みんなで祝おう! 卒寿記念コンサート」>

天野 雅子 池戸 真理子 一柳 吉子 稲垣 美晴 えこ 上原 洋子 植村 月枝 岡村 茉莉奈 木全 恵美子
CATHERINE CATES 久間 和子 久保 春代 坂井 和 佐々木 暁子 澤井 みのり スオミ・ピアノ・スクール研究会 鈴木 早苗
高橋 理都子 田邊 英利子 照井 はるみ K.T. 中村 康江 日本シベリウス協会 橋本 利明 服部 喜恵子 林 幸仁 原田 君代
平山 美由紀 福田 誠 藤澤 ふさ子 真野 美千代 丸山 康 安田 牧子 湯本 早百合 H.W.
館野泉ファンクラブ 館野泉ファンクラブ九州 館野泉ファンクラブ北海道 タピオラの会
(匿名希望 4名)

【法人サポーター】

ミサワホーム株式会社 日本フェルト株式会社
AGCグラスプロダクツ株式会社 三和シャッター工業株式会社 株式会社スルガ
DAIKEN株式会社 ニチハ株式会社 株式会社 LIXIL
エイベックス・クラシックス・インターナショナル株式会社 株式会社オクタヴィア・レコード ヤマハ株式会社

<ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. 佐久間 隆弥 Rimiko N.S. 竹内 麻里子 中尾 圭吾 T.H. 樋口 美枝子 K.F.
細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 ロロコミ
(匿名希望 11名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 T.O. K.K. 佐久間 隆弥 Rimiko M.T. 平山 美由紀 細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 ロロコミ
(匿名希望 9名)

<千住真理子に「花を贈ろう!」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 眞 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 田中 治郎 H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子
(匿名希望 7名)

2025年12月2日現在 敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)